

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320054

研究課題名(和文) 金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究 聖教の形成と伝播把握を基軸として

研究課題名(英文) The Intensive Research and Study on the Classical Texts Preserved in the Kongo-ji Temple: Pivoting upon the Formation and the Circulation of its Buddhist Scriptures

研究代表者

後藤 昭雄 (GOTO, Akio)

成城大学・その他部局等・元教授

研究者番号：80022284

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は大阪府河内長野市の真言宗寺院金剛寺所蔵の聖教の全体的調査を目的としたが、2007-2010年の科研費による成果を継承して、より精度の高い調査研究を目指した。その結果として、先に作成した仮目録を再度現物と照らし合わせて点検し、本目録として完成させた。貴重典籍の精査は『宝篋印陀羅尼經』『清水寺縁起』を初めとする資料について行い、その成果は日本および中国で開催したシンポジウムで発表し、また京都国立博物館の特別展「金剛寺名宝展」に出陳して広く一般市民にも公開した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to enrich a general investigation into Kongoji Shogyo: the collection of the sacred texts in the possession of the Kongoji in Kawachinagano City, Osaka Prefecture. For that purpose, our project succeeded to the previous Grant-in-Aid for Scientific Research (B) (2007-2010) and tried making more accurate scrutinies and studies of Kongoji Shogyo and its formation. In the process, we collated the former tentative catalog of the Shogyo texts with the original materials respectively to check and confirm the bibliographic descriptions, so that we have completed the catalog. And we scrutinized the various rare codices, such as Hokyoin-darani-kyo, Kiyomizudera Engi and so on.

Our research team held international symposiums in Japan and China (Beijing) to make presentations on the research results, and we co-sponsored academic research special exhibition "Kongo-ji Meihoten" in Kyoto National Museum to open the fruits of our research to the public.

研究分野：文学(日本漢文学)

キーワード：金剛寺 寺院資料 聖教

## 1. 研究開始当初の背景

2007-2010年の4年間に科研費の交付を受けて「真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究 金剛寺本を中心に」の課題のもとに調査研究を行ない、基礎的な調査は一応終えていたが、膨大な数の資料であり、より精度の高い調査研究が必要であった。

## 2. 研究の目的

本研究は大阪府河内長野市の真言宗寺院金剛寺所蔵の聖教について全体的な調査研究を行うことを目的とする。具体的には次のことを行う。

- (1) 前科研で作成した金剛寺所蔵聖教の略目録の補訂
- (2) 貴重典籍の精査
- (3) 貴重資料奥書の集成
- (4) 貴重典籍刊行の準備
- (5) 研究成果の公開

## 3. 研究の方法

前記の目的のうち、より重要な(1)(2)を行うためには金剛寺における現物に即しての調査研究が不可欠であるので、毎月1度、金剛寺に出張して調査を行うことを基本とした。これについては研究組織メンバーだけでは人手が不足するので、研究協力者、調査協力者の援助を得た。平均して毎回十数名が作業に従事した。

略目録には外題、内題、尾題、残存状態、書写年代、手沢、冒頭(書名未詳の文献については冒頭の10字程度を記録する)、備考を設けていたが、さらに装訂、奥書、識語の項目を加えて、現本と照らし合わせて補訂を行った。

貴重典籍の調査研究 現本について緻密な調査を行ない、将来の公刊を見据えて写真撮影を行った。また書写年代の古い本について以前に作成していた調書をもとにデータベース化を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 目録の作成

上記の前科研の成果として作成していた『金剛寺聖教目録稿』(略目録)に補訂を加えて、金剛寺聖教の全体的調査の成果として『金剛寺経蔵聖教目録』(2分冊、320ページ)として刊行した。9752点の聖教の目録である。

### (2) シンポジウムの開催

日本と中国において2度のシンポジウムを行った。

2012年7月21日、国際仏教学大学院大学日本古写経研究所の文部科学省支援事業「東アジア仏教写本研究拠点の形成」(代表者 落合俊典)と共催で金剛寺蔵「宝篋印陀羅尼經」についてのシンポジウム「テキストとしての『宝篋印陀羅尼經』とその展開」を国際仏教学大学院大学で行った。その成果

は同大学から報告書として刊行されたが、落合俊典、赤尾栄慶、海野圭介の論文が収載されている。

2014年10月25・26日の両日、中国、北京の中国人民大学外国語学院(責任者 李銘敬教授)と共催で同大学において「仏教と文学 日本金剛寺仏教典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム」を行なった。後藤昭雄、赤尾栄慶、荒木浩、近本謙介、海野圭介、箕浦尚美、中原香苗、中川真弓、米田真理子、丹下暖子が参加した。これは仏教文学研究と金剛寺聖教研究の成果報告を二本の柱としたが、後藤以下8人が金剛寺聖教について講演、研究発表を行なった。

### (3) 研究成果の一般市民への公開

研究分担者赤尾栄慶の高配により、京都国立博物館において、2015年3月4日より同29日まで「特別展観 天野山金剛寺の名宝」が開催された。『遊仙窟』『注好撰』『清水寺仮名縁起』『三宝感応要略録』など貴重典籍19点を展示して、一般市民の観覧に供した。また赤尾栄慶による講演「金剛寺学術調査の成果について」が行われ、本科研の研究成果が広く一般にも公開された。

### (4) 聖教の個別調査研究

聖教の個別調査研究の主なものは以下のとおりである。論文、学会発表の題目は後記の「5. 主な発表論文等」に記した。

#### 清水寺縁起(漢文縁起)(近本謙介)

金剛寺本は続群書類従本と同系統の本文を有するが、続類従本の欠脱を複数箇所補える善本である。また金剛寺本末尾には続類従本にはない「清水寺別当次第」が書写されている。さらに本書の紙背聖教は華嚴經に関する談義として重要であると同時に、金剛寺蔵の仮名本『清水寺縁起』紙背と共通である。本書の「清水寺別当次第」は鎌倉時代初期から中期にかけて活躍した僧侶を下限として記されており、本書の書写時期も自ずからこれを遡ることはないが、同時に本書の成立がその時点を大きく下るものではないことを示している。清水寺草創以来の別当次第の資料が少ない点からも貴重であり、『東寺百合文書』所収「清水寺別当次第」との異同などから定位していく必要がある。また本書と仮名縁起の紙背が共通であることは両者が同時期に同じ場で書写されたものであることを示すもので、その関係を考える新たな手がかりとなるものである。本書を翻刻し、続類従本との校異を示した。(以上著書論文)

本書の位置を確認するために永正2年(1515)書写『金剛寺結縁過去帳』に着目し、鎌倉時代の金剛寺と興福寺大乗院との深いつながりを指摘した上で、それが鎌倉時代末期から南北朝期の禅恵(1284~1364)の書写・集書活動へと展開することを明らかにした。東大寺東南院を介する禅恵の書

写活動は真福寺におけるそれとも相似形をなすものであり、この時期の寺院聖教の形成を考える上で欠かせない資料群である。(以上、シンポジウム発表)

#### 宝篋印陀羅尼經(海野圭介)

本書2巻(重要文化財)は紙面、紙背に和歌、歌謡、仮名書状を残す供養經の遺品として早くより注目されてきた。従来は歌謡、歌人研究の資料として取り上げられてきたが、本研究では和歌の遺品として、その資料性を明らかにし、4群に分けられるそれぞれの内容を分析した。(報告書論文)

次に本書を同時期の状況を伝える金剛寺所蔵の文書類の記述と照らし合わせることで、院政期における金剛寺の政治的・社会的環境などについて考察した。創生期の金剛寺に有縁の貴顕、武士、在地者などの名を伝える『金剛寺結縁過去帳』の資料性を考える上で、本書所収の和歌に記載された歌人名やそこから窺われる人的交流の様相が有効に機能する。(シンポジウム発表)

#### 『佚名諸菩薩感応抄』の編纂方法(箕浦尚美)

本書は菩薩に関する経文と感応譚を抄出集成した平安末期の列帖装の冊子(現存110丁)である。はじめに菩薩の概要を述べ、続いて文殊、普賢、観世音の順に、各菩薩に関する経文と感応譚が集められている。感応譚の部分に逸文を含む希少な文献が利用されていることが先行研究によって指摘されている。本研究では経文類聚部に着目して、内容と編纂方法を検討し、主に以下の見解を得た。

経文類聚部にも『観音三昧經』『千臂千眼観世音菩薩呪經』(古写本系本文)などの希少な本文が含まれる。

各篇はいずれも丁の表から書き始められているが、篇の末尾などに余白が設けられている。のちに要文や感応譚を追記するために設けたものと推測される。

経文の抄出と感応譚は、文殊、普賢、観世音、(付 勢至)の順に記されるが、その配列は、釈迦三尊・阿弥陀三尊の脇侍の順と考えられる。

経文類聚部は、各菩薩の感応部の前に位置し、自らの菩薩行の実践を促すものよりも、信仰対象となる菩薩の靈験にかかわるものが多い。陀羅尼の功德や観音菩薩の形に関するものなどである。

#### 金剛寺所蔵の音楽資料(中原香苗)

金剛寺の聖教中には、教学に関わる多数の文献のほかに多様な典籍が見られる。数は少ないものの、音楽に関わる資料も存在し、現在までに合わせて6点が確認されている。それらのうちには、中国から日本へと琵琶が伝えられた経緯を伝える説話を載せる『琵琶秘抄』など興味深いものも含まれるが、金剛寺

第13代学頭の禅恵(1284~1364)が文保2年(1318)に書写した『諸打物譜』に注目する。本書には雅楽の演奏で用いられる打楽器である打物の楽譜や演奏にまつわる口伝などが記されるほか、演奏に用いられる楽器の名器に関する記述や『順次往生講式』にまつわるものなど、多様な内容が記されている。これまでの研究により、禅恵が東大寺東南院や根来寺とつながりを持っていたことが明らかにされているが、「諸打物譜」からは、それらとは異なる方面との関わりをうかがうことができる。本書には住吉社からもたらされた口伝、あるいは南都の信貴山に関わる人物をニュースソースとした記事、また南都浄土院に住した「実延」なる人物の口伝などを見いだすことができる。すなわち音楽資料に着目することで、これまで知られていた方面とは異なる、住吉や信貴山、興福寺などと禅恵との関わり、ひいては金剛寺との関わりが明らかになってきた。

#### 金剛寺蔵『無名仏教摘句抄』の書写とその周辺(中川真弓)

『無名仏教摘句抄』は経典や願文、表白、伝、讃など、仏教関係の要句を類聚した摘句集である。表紙見返しには「讃仏、寺塔、法門、菩薩、僧、神分、靈分」と記されており、本文の内容を記した標目となっている。本書の成立については未詳であるが、摘句の一つに「鳥羽院願文」とあることから、中世初期頃が成立の上限と考えられる。本書の書写奥書には「宝治元年五月二十八日書之戌時許」とあり、宝治元年(1247)の書写である。表紙に「源円」の名が見える。金剛寺一切経の『成唯識論卷五』は、奥書によれば文永10年に「源円」によって書写され、「南都修南院法印御坊」の所持本によって加点し、金剛寺一切経のなかに「証本」として取り入れられたという。「当寺」に金剛寺と注記していることから、「源円」が金剛寺の人物であったと確定される。『成唯識論卷五』は『無名仏教摘句抄』から26年後の書写であり、「源円」は奥書に「老耄に依り仮名字見えすと雖も」と老齢に至ったことを述べている。また「南都修南院法印御坊」は『東寺百合文書』の書状群や『金剛仏子叡尊感身学正記』にその名が見える興福寺修南院法印実感という人物に比定される。金剛寺一切経と書写者が共通する本書の存在は、中世前期の金剛寺における修学活動について考える上で重要な資料である。

#### 『憂喜餘ノ友』の性格とその受容(米田真理子)

本書は「千代野物語」の名称で知られる物語の一伝本である。「千代野物語」は作者を夢窓疎石に仮託した物語で、伝本の一つ早稲田本は和漢混淆文で書かれている。「余」と「老宿」の問答を全体の枠組みとして、そのなかに「千代野」という女性の開悟譚を含む

構成を持ち、諸本のなかでは初期の姿を留める伝本である。また、物語には老宿の出家に至る経緯や下女である千代野が尼僧から禅の修行について説明を受ける様子が描かれており、修行の初歩を教える法語としての側面を有すると言える。金剛寺本には奥書や識語がなく、書写の事情や伝来の経緯はつまびらかではないが、本文には別筆で帰りが付され、欠損箇所を文字を補うなど、繰り返し読まれた形跡が認められる。金剛寺の経蔵には禅に関わる典籍では、「信心銘」(正長2年、1429写)や五山僧の詩文集『九淵詩稿』などが伝わる。金剛寺は真言宗の寺院であるが、こうした禅に関わる典籍が所蔵されていたことは、当時の僧侶たちの関心の広さを示すものである。

金剛寺聖教にみえる僧仁範の足跡(久米舞子)

金剛寺聖教のうち「仁範」の名を記す『聖観音儀軌』『仏頂尊陀羅尼儀軌』『求聞持法儀軌』『薬師念誦儀軌』『不動儀軌帖』を対象として考察した。いずれも天台僧の仁範が残した密教の儀軌である。彼はこれらを長元2年(1029)～5年(1031)に、金峰山石蔵寺、備中国英賀郡仏性寺において読誦した。仁範は11世紀前半に特定の寺院に属さず、各地の寺院を巡り、山岳修行した天台僧と想定される。『粉河寺大卒塔婆建立縁起』奥書には勸進僧として仁範の名があり、彼は天喜元年(1053)から翌年に寺の大衆とともに大卒塔婆を作り、寺中や郡内諸人を動員して、これを営作した。13世紀には粉河寺を復興させた仁範は行基に重ね合わされ、彼の生家である家原寺をも復興させたとの言説が生み出された(「粉河縁起」「行基菩薩縁起図絵詞」)。金峰山や粉河寺、家原寺、そして金剛寺は高野街道や紀ノ川で結ばれた地域である。金剛寺には寿永2年(1183)に「天野別所」が存在した。また建長7年(1255)の「三輪上人行状」奥書には「河内国錦織新別所」、金剛寺聖教高野版「大乘起信論」の延元4年(1339)加點奥書にも「河州錦部新別所北坊」とある。近年発見された金剛寺金堂の不動明王坐像の胎内銘からは、この像が勸進による結縁によって造立されたことが分かった。仁範が所持した密教の儀軌は、諸国を遊行する山岳修行者や聖が結んだ霊場や別所といったネットワークを介して金剛寺へ持ち込まれたものであるかもしれない。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔論文〕(計8件)

近本謙介 天野山金剛寺蔵『清水寺縁起』(『論集 中世近世説話と説話集』201

4年)

海野圭介 和歌史における金剛寺本宝篋印陀羅尼經(『金剛寺蔵宝篋印陀羅尼經』2013年)

〔学会発表〕(計11件)

近本謙介 金剛寺聖教形成における『清水寺縁起』の位置 仏教と文学 日本金剛寺仏教典籍調査研究成果報告国際学術シンポジウム 2014年10月25・26日 中国北京 中国人民大学

海野圭介 金剛寺蔵『宝篋印陀羅尼經』と院政期の金剛寺 同上

箕浦尚美 金剛寺蔵 佚名諸菩薩感應抄の編纂方法 観世音篇の経文類聚に着目して 同上

中原香苗 金剛寺所蔵の音楽資料 禅恵筆『諸打物譜』を中心に 同上

米田真理子 金剛寺蔵「憂喜餘ノ友」の性格とその受容 同上

〔図書〕(計2件)

後藤昭雄編 『金剛寺経蔵聖教目録』成城大学 2015年 320頁

後藤昭雄著 『本朝漢詩文資料論』勉誠出版 2012年 466頁(うち金剛寺資料に関する部分は127-317頁)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

後藤 昭雄(GOTO, Akio)

成城大学・元教授

研究者番号：80022284

### (2)研究分担者

荒木 浩(ARAKI, Hiroshi)

国際日本文化センター・研究部・教授

研究者番号：60193075

赤尾 栄慶(AKAO, Eikei)

独立行政法人国立文化財機構京都国立

博物館・学芸部・首席研究員

研究者番号：20175764

箕浦 尚美(MINOURA, Naomi)

大阪大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号：70449362

### (3)連携研究者

宇都宮 啓吾(UTUNOMIYA, Keigo)

大阪大谷大学・文学部・教授

研究者番号：40257902

海野 圭介(UNNO, Keisuke)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：80346155

落合 俊典 (OTIAI, Toshinori)  
国際仏教大学院大学・仏教学研究科・  
教授  
研究者番号：10123431

勢田 道生 (SETA, Mitio)  
大阪大学・大学院文学研究科・助教  
研究者番号：40580668  
平成25年度より、研究協力者  
(日本学術振興会特別研究員(PD))

近本 謙介 (TIKAMOTO, Kensuke)  
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授  
研究者番号：90278870

中原 香苗 (NAKAHARA, Kanae)  
神戸学院大学・経営学部・准教授  
研究者番号：80469270

仁木 夏実 (NIKI, Natumi)  
明石工業高等専門学校・一般教育・准教授  
研究者番号：40367925

山崎 淳 (YAMAZAKI, Jun)  
日本大学・生物資源科学部・准教授  
研究者番号：20467517

米田 真理子 (YONEDA, Mariko)  
神戸学院大学・法学部・准教授  
研究者番号：00423210